

超巨大ハーグイン族

大盛り!!

R-18



空に迫りくる様々な脅威…。

空の世界には様々な脅威が存在する。自然災害や魔物の襲来、悪意ある人々による事件や神々の気まぐれ…空域と呼ばれる浮島の集合体がある日突然消える事など珍しく無かった。だが人類もただ蹂躪されるだけではなく、それら脅威に対抗すべく、長い年月の中で抗う術を磨いてきた…が、突如現れたそれはそんな人間達のちっぽけな抵抗など嘲笑うかのように全てを破壊し始めるのだった。

雲海を散らしながら現れた超巨大な物体に無数の浮島が押し潰されていく。人々が住む街がいくつも乗っている巨大な浮遊大陸でさえ、そのあまりの質量に激突されるとまるで脆い土塊の様に崩れ去っていく。

「もう…！さっきからなんですの!?!
鬱陶しいったらありませんわ！」

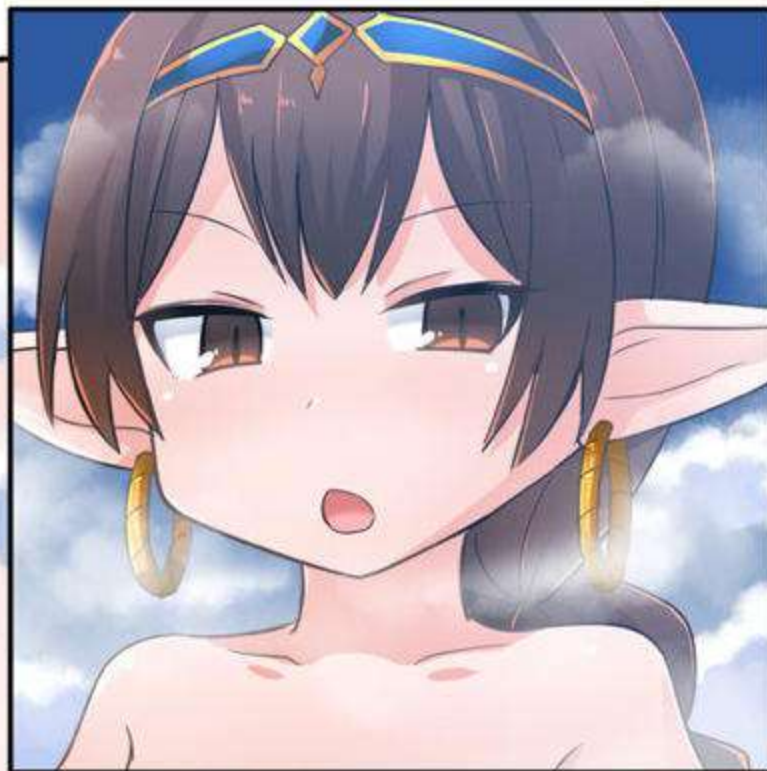
ハーゼリーウが視界の端にまとわりつく不快な羽虫を払う様に右手を軽く振る。しかし実際に散らされたのは虫なんかではなく、人々が住む浮遊大陸。ハーゼの小さな手は積乱雲を消し飛ばし、進路上にあった標準的な大きさの浮島を3つ程消し飛ばしてしまっていた…。



軽く手を動かしただけで500万人程を浮島ごと蹂躪したハーゼリーウ。超巨大ハーヴィン族である彼女はただ空域を守る為に来ただけだというのに、そのあまりの巨大さに逆に人類の脅威になってしまっていた。ハーゼが一步步く度にそのむちむちとした身体で浮島が弾けて墜落する。地上ではその巨体を支える足が海や大陸を踏み潰しており、彼女の意識の範囲外ではもう1,000万人近い犠牲者が出ていた。

「それにしても…依頼があったという島は一体どこなのかしら？」

パトロールを邪魔する土塊を駆除したハーゼリーウが不思議そうに周囲を見回す。今回の依頼である魔物の討伐を発注した街の座標に来て、そこにはただ雲海が広がるだけ。ハーゼは気付かなかったが、その目的の場所には魔物の襲来など些細に見えるほどの更なる脅威が近付いていた…。



浮島を覆い尽くす巨大な影。島の中心部で繁栄した国家の上空にハーゼリーウの超巨大なぷにまんが迫る。彼女が覚えていた街の座標は間違っていなかったが、その目的地があまりにも小さかった為、股間の真下に人々の生息地がすっぽりと収まってしまったのだった。

超巨大ハーヴィン族のぷにまんが轢き潰される浮島。ハーゼのムチムチした股間のぷっくり盛り上がった部分…。その浮島よりも面積のあるおまんこが浮遊大陸の地表を磨り潰しながら動き出す。都市も村も山脈も森も全てがハーゼの超巨大ぷにまんにより平らに均されていく。

むちっ♡♡♡♡♡



「…？また何か当たったかしら」

ハーゼの股の間から変わり果てた浮島が通過してくる。いくら発展した大都市でも一瞬でハーゼのぷにまんが磨り潰されてしまい、彼女の股間の表面にこびりつくゴミと化してしまう。無自覚の内にハーヴィンおまんこドーザーという大災害で数百万人を轢き潰したハーゼリーウは、再び空域パトロールに戻るのだった。

むちっ…

💀 2,365,478

ザアアア…

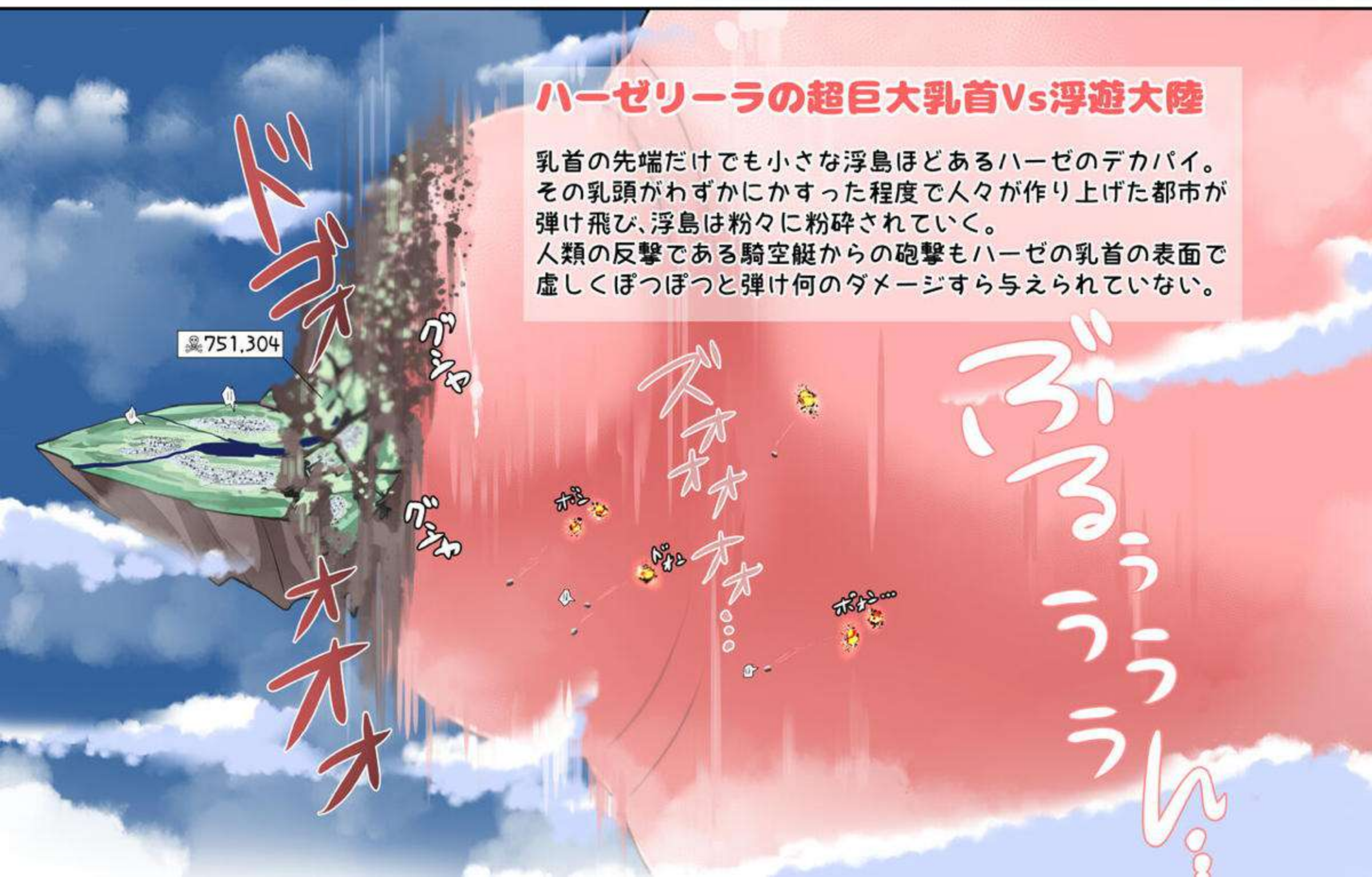
超巨大ハーヴィン族のデカパイに 轢き潰されていく島々

ハーゼリーラが数歩歩くだけでその巨体が次の空域へと侵入してしまい、そこに浮いている島々は壮大に揺れる爆乳に激突し墜落していく。柔らかなはずの両胸が浮島をぺちぺちと叩き潰し、数十万人もの人々が逃げる間もなく磨り潰され、ハーゼのデカパイにこびりつくゴミと化す。



ハーゼリーラの超巨大乳首Vs浮遊大陸

乳首の先端だけでも小さな浮島ほどあるハーゼのデカパイ。その乳頭がわずかにかすった程度で人々が作り上げた都市が弾け飛び、浮島は粉々に粉碎されていく。人類の反撃である騎空艇からの砲撃もハーゼの乳首の表面で虚しくぼつぼつと弾け何のダメージすら与えられていない。



「あ～もう！ほんと邪魔ですわね！」

自分の胸をくすぐる浮島達にしびれを切らしたハーゼが左右からおっぱいを寄せ谷間で揉み潰す。ちっぽけな島々などほんの少しも抵抗出来ずにハーゼのデカパイの間でぺちゃんこになる。

とある浮島の最後

都市が4つほど乗った中規模の浮島が左右からの圧力に悲鳴を上げ、崩壊を始める。



逃げ惑う人々は避難先すらあらず、騎空艇に乗る時間も無いまま巨大な物体に島ごと圧縮され80万人程度が一瞬にして磨り潰されてしまった。



「そんなにおっぱいが好きなら
望み通りにしてさしあげますわ！」

ハーゼのパイズリで空域ごと揉み潰される浮島達…。目の前に浮かんでいた島々目掛け歩み寄ったハーゼは、浮遊大陸を巻き込む形で両胸を揉みしだき、人類の蹂躪を始める。



ハーゼの機嫌を損ねたというだけで数千万人単位がハーヴェインのデカパイズリに巻き込まれ殺戮されていく。人類が経験したどんな災害や魔物の襲撃よりも凄まじいパイズリ大災害。超巨大種族であるハーゼがおっぱいを揉んだだけで、人類の生存圏は空域ごと消え去ってしまうのだった。

リゾート地寝そべり躁闘

「ちょっと…勝手に人の体に乗らないでくれませんか!？」

依頼任務後にリゾート地区に横になり休むハーゼ。
地表の大陸を背中でいくつも押し潰しその巨体を休めていると、風に流されてきた浮島達が彼女の身体に遮られ乗り上げ始めた。

ハーゼの身体に阻まれる浮島達…。
ぶにぶにとした肉体に小さな島々が当たり
くすぐったそうに身動ぎするハーゼ。
その僅かな動きで背中や尻の下の大陸が更に
粉碎され犠牲者が増え続ける。
広大な腹の上や浮島の面積の何倍もの面積が
ある乳輪、そしてぶにまんの上までも浮遊大陸が
こびりついていた。

24,321,971

13 497 951

「わかりましたわ！わたくしが退けばいいのでしょうか？」

ハーゼが自分の体表にくっついた浮島をはたき落としながら寝返りを打つ。彼女の手と身体に叩き潰され数千万人が死滅。しかしハーゼは面倒くさそうに地響きを立てながらうつ伏せになり、隣の空域と地上の大陸を押し潰してしまう。

ズズズドoooooooo!!

（お尻…少し大きくなったかしら…？）

寝返りを打つ時、ハーゼの尻が無数の浮島を巻き込み粉碎する。海に浮かぶ大陸の上に超巨大ぶにまんが叩きつけられ、偶然そこにあったというだけでむっちりとしたハーゼのおまんこプレスにより一つの国が滅亡…。しかしそんな事より、ハーゼは自分の尻が僅かに育っている方に意識が行くのがだった。

ズズズウウウウン...

「本当にこちらであっていますの？」
「ああ、ハーゼリーラが言うには……」



談笑しながら歩いてくる超巨大ハーヴィン族の二人。
おっとりとした喋りと裏腹に、足元では一步ごとにその巨大な足裏で大陸を踏み潰しながら歩いていく。

「それにしても…プライベートビーチに浮いているなんて非常識ですわね」

「どうせ身体に当たれば弾けてしまうんだ。無視していれば良いさ」

アラサーハーヴィンのどたんぽんボディにぺちぺちと当たる浮島を邪魔そうに手で払いのける**マギラフリラ**と、堂々と歩きながら空域を爆乳で押し潰して進む**アルルメイヤ**。何百万、何千万人という人々が二人のおばさんハーヴィンの胸や腹、太ももや股間で押し潰され蹂躪されていくが、肝心の本人達はまるで自分達しかそこに居ないかのようにリラックスし過ごしていた。大陸を巨尻で押し潰し座り込んだり、美容の為に浮島を手に取り胸や脇に擦り込む。普段は空の治安を守る立場の二人でも、プライベートの時は人々の事を気にせずに済む。一人でも災害級の超巨大ハーヴィン族のおばさん二人に、また一つ空域が減ぼされてしまうのだった。

アルルメイヤ：♀49,217,937

マギラフリラ：♀36,146,147